

# 武蔵野大学における私立大学等改革総合支援事業を中心とする 私学助成を基盤とした取組と成果

## ◇学校法人 武蔵野大学

### 【設置学校・関連機関】

武蔵野大学・大学院  
武蔵野女子学院中学校・高等学校  
千代田女学園中学校・高等学校  
千代田インターナショナルスクール東京 (CHIST)  
武蔵野大学附属幼稚園  
武蔵野大学附属慈光保育園

### 【関連機関】

武蔵野大学孔子学院  
武蔵野大学附属産後ケアセンター桜新町  
株式会社エムユービジネスサポート  
武蔵野大学出版会 等

## ◇学校法人 武蔵野大学沿革

年代	内容
1924	中央区築地に「武蔵野女子学院」創設
1927	高等女学校を設立
1943	浄土真宗本願寺派本願寺の派立学校に
1950	武蔵野女子短期大学を設立
1965	武蔵野女子大学を設立
1999	大学院設置
2003	武蔵野大学へ名称変更
2004	男女共学化
2012	江東区有明にキャンパス開設
2016	千代田女学園と法人合併

## ◇武蔵野大学概要

2017年12月現在(一部5月現在)

大学名	武蔵野大学
設置者	学校法人 武蔵野大学
開設	1965年 (2003年 現大学名に名称変更)
所在地	有明キャンパス 東京都江東区有明三丁目3番3号 武蔵野キャンパス 東京都西東京市新町一丁目1番20号
学部構成	文学部・グローバル学部・グローバルコミュニケーション学部※ 法学部・経済学部・政治経済学部※・人間科学部・教育学部・ 工学部・環境学部※・薬学部・看護学部 (2018年:9学部18学科予定) ※募集停止の学部
大学院 研究科	文学・言語文化・政治経済学・人間社会・仏教学・環境学・教育 学・薬科学・看護学 (計9研究科:修士課程) 文学・言語文化・政治経済学・人間社会・仏教学・薬科学・看 護学 (計7研究科:博士後期課程)
通信教育	人間科学部・教育学部 (2学部) 人間学・仏教学・環境学研究科 (3研究科)
理念	建学の精神 = 仏教による人格教育
目的	人格向上、人格向上による高い理念、理想の具体化
ブランド スタート	◇ブランドスタート「世界の幸せをカタチにする。」 ◇ブランドビジョン「響き合い、高め合うスパイラル」 感性を磨く・知恵を開き合う・響き合いを高め合う
入学定員	1年次 2,077名 (平成29年5月現在)
収容定員	8,235名 (平成29年5月現在)
在籍学生	8,551名 (平成29年5月現在)
大学院定員	365名 (在籍:300名)
大学専攻科	60名 (在籍:27名)
通信教育部	3,152名 (在籍:3,482名)

## ◇私立大学等改革総合支援 事業採択状況

年度	タイプ	備考
2013年度	タイプ1 大学教育質転換型	
	タイプ2 地域特色型	
	タイプ3 多様な連携型	
2014年度	タイプ1 教育の質的転換	
	タイプ2 地域発展	
	タイプ4 グローバル化	
2015年度	タイプ1 教育の質的転換	
	タイプ2 地域発展	
	タイプ4 グローバル化	
2016年度	タイプ1 教育の質的転換	
	タイプ2 地域発展	
	タイプ3 産業界・他大学等との連携	
2017年度	タイプ1 教育の質的転換	タイプ2 は申請 要件外
	タイプ3 産業界・他大学等との連携	
	タイプ4 グローバル化	

## ◇AP採択状況

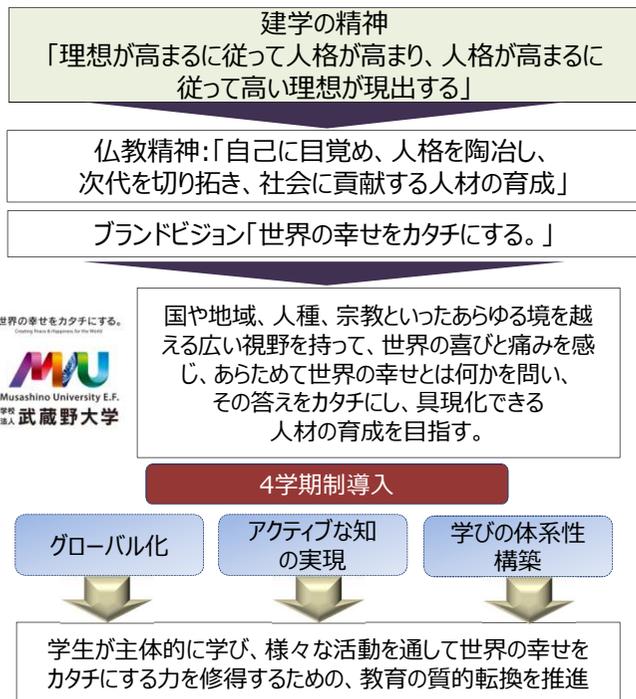
平成27年度大学教育再生加速  
プログラム(テーマIV)認定  
長期学外学修(ギャップイヤー)

## ◇私学助成を受けた設備投資

- ・ラーニングスクエア等の整備  
(教育の質保証:アクティブラーニング推進)
- ・同時通訳関連機器整備  
(グローバル化推進)
- ・ICT教育、IT環境(無線LAN)整備  
(教育の質保証:総合管理サーバ購入等)
- ・授業収録システム整備  
(教育の質保証)

# 本学の教育理念と教育の質的転換に向けた教育改革

## ◇建学の精神と改革への手順



## ◇教育改革の歩み

2013年(H25)	・主体的学びを促進するため、「武蔵野ラーニングスクエア」の開設（教育研究活性化設備整備補助金）	私立大学改革総合支援事業採択
2014年(H26)	・学修時間の実質的な増加・確保を目指した諸方策(コアカリキュラム化・シラバスの見直し・CAP制の見直し)の実施 ・アクティブ・ラーニングへの授業改善、質的向上に向けた様々な試行を目的とした授業改善トライアルの実施(全学)	教育の質保証 授業改善策の推進
2015年(H27)	・学修の質向上とギャップイヤー活用のための4学期制一部導入 ・3ポリシーの見直し(2010年策定のポリシー見直し→DP精緻化の為企業人事調査、国内外事例調査等を実施しCP、DPの連動性を図る) ・教育課程体系化のための <b>カリキュラムマップ導入</b> ・大学教育再生加速プログラム(AP)採択に伴う <b>フィールド・スタディーズ(長期学外学修)の推進</b> ・教育の質的評価のための全学授業評価アンケート(毎学期)、大学IRコンソーシアムアンケート、全学学生生活実態調査の開始	IR推進室設置 クォーター制導入を契機とした教学面の改革
2016年(H28)	・学修の質の向上とギャップイヤー活用のための <b>4学期制全学導入</b> ・全学科のゼミ対象に <b>ルーブリック評価導入</b> ・教育課程体系化のためのナンバリング導入 ・教育成果検証のための卒業時アンケート開始	完全クォーター制移行
2017年(H29)	・1年次におけるフィールド・スタディーズ(1か月前後の長期学外学修)の本格稼働 ・DP到達度を図るための学科ルーブリック導入(3・4年時) ・主体的学びを促進するための「 <b>クリエイティブ・ラーニングスクエア[CLS](両キャンパス)</b> 」の開設	主体的な学修者の育成

## ◇武蔵野大学改革の歩み

2017年度現在9学部16学科 大学院9研究科  
通信教育部(2学部大学院3研究科)および専攻科1課程

年	事項(歩み)	新設・節目等
1998年	文学部に加え現代社会学部現代社会学科、社会福祉学科設置。	単科から2学部体制
2003年	武蔵野大学に名称変更。人間関係学部環境学科、保育学科を設置。	
2004年	<b>男女共学化。薬学部薬学科を設置。</b>	共学化へ
2006年	看護学部看護学科を設置。	医療系2学部へ
2008年	現代社会学部現代社会学科を政治経済学部政治経済学科に名称変更。同社会福祉学科を人間関係学部社会福祉学科に改組。	政治経済学部 人間関係学部
2009年	人間関係学部環境学科を環境学部環境学科に改組。	環境学部
2011年	文学部英語・英米文学科をグローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科に改組。人間関係学部児童学科を教育学部児童教育学科に改組。	グローバル・コミュニケーション学部
2012年	<b>江東区有明に新キャンパス(有明キャンパス)を開設。</b>	2キャンパス展開
2014年	政治経済学部政治経済学科と経営学科を、法学部法律学科と政治学科、経済学部経済学科と経営学科に改組。	法学部、経済学部
2015年	環境学部環境学科を、工学部環境システム、数理工、建築デザインの3学科に改組。	工学部
2016年	グローバル・コミュニケーション学部を、グローバル学部グローバルコミュニケーション学科、日本語コミュニケーション学科、グローバルビジネス学科に改組。	グローバル学部
2018年	教育学部にこども発達学科、経済学部会計ガバナンス学科を設置。	

# これまでの教育改革の取組とその成果①

## ◆ 本学の教育の質的向上施策

### 学長を中心としたガバナンス体制

教育改革推進会議設置(H28～)  
(改革施策の立案、企画協議)

教育改革推進会議小委員会設置  
(H28～/ワーキンググループ)

テーマ別学科協議会開催  
(H28/全学科との個別コンタクト)

### PDCAサイクルの機能化

IR推進部門設置 (H26～)

全学アンケート・調査の拡大  
学生調査・授業評価等 (H26～)

学科ブランド目標の策定(H24～)  
各学科成果の全学検証機会(H28～)

### 全学・全学科の教育施策 体系化

3年リー再定義と定量目標設定  
(H28～/出口保証)

ナンバリング&カリキュラムマップ  
の策定・精緻化(H28～)

ゼミ・ルーブリックの策定

全学・初年次ゼミ(H30～)

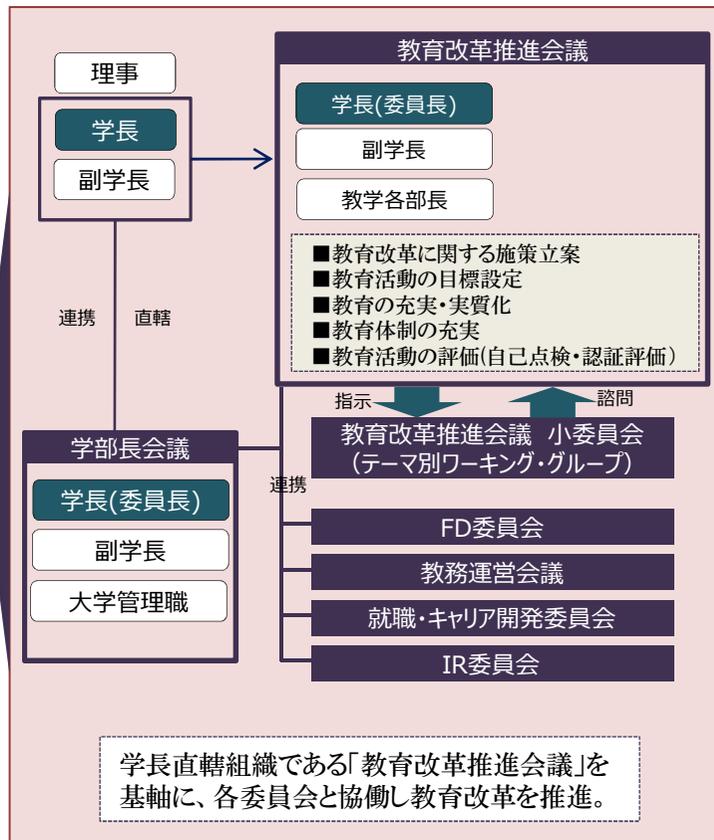
### 全学共通の教育基盤 武蔵野BASIS改革(H30～)

教養科目と専門科目の  
連続性確保

DPを踏まえた基礎教養科目の  
再構築

4学期制度下の全学共通の  
教育プログラム整備

## ◆ 学長のガバナンス体制構築



## ◆ 教育改革を通じた変化 (2016年度実績)

### 学長を中心としたガバナンス体制

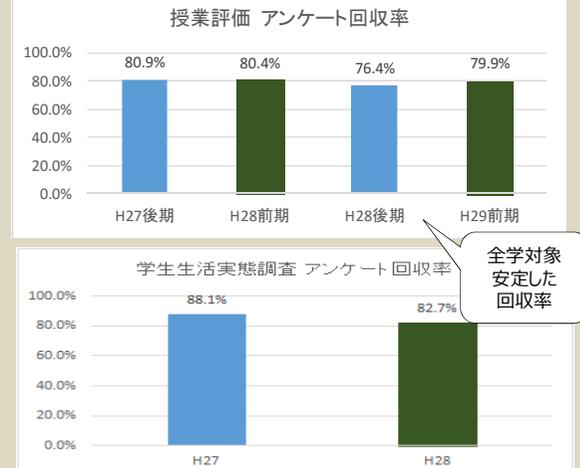
教育改革推進会議 隔週開催

小委員会(WG) 年20回開催

教育改革の  
立案・検証

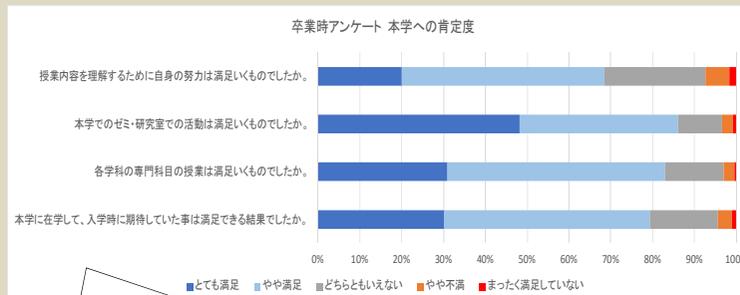
### PDCAサイクルの機能化

全学アンケート・調査の拡大  
学生調査・授業評価等 (H26～)



## 【卒業生アンケート】(4年卒業時)

平成28年3月実施

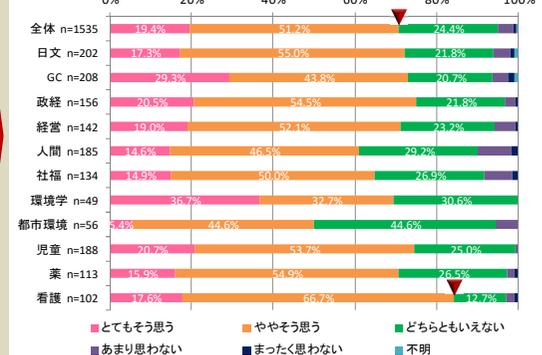


平成28年度卒業生調査では、約8割の学生が、入学時に期待したことが満足できる結果だったと回答。ゼミ・研究室評価も85%が満足。

## <卒業生アンケート/思考・判断力>

平成28年3月実施

論理的に物事を考えることができるようになった



# これまでの教育改革の取組とその成果②

## ◆近年の主な施策と派及効果

### ①4学期制移行&教育質的転換

◇ブランドステートメント設置 (2016年)  
「世界の幸せをカタチにする。」  
◇行動指針  
「響き合い、高め合うスパイラル」  
感性を磨き合う、知恵を開き合う、響創力を高め合う、ことを具体化、実効化するための諸改革、教育施策を展開

- 「アクティブな知」獲得の創造的思考力育成
- 早期の学修動機、学修観の育成
- アクティブラーニング実施率向上
- 高大接続教育の実効化(入学前教育)

### ②全学的な学外学修の実践

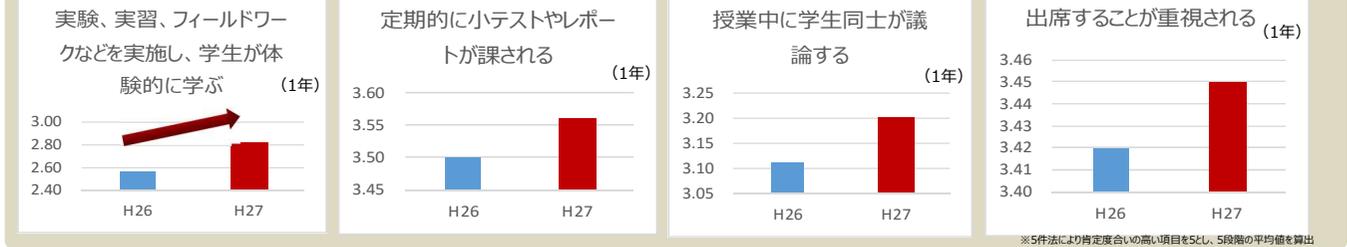
(アクティブラーニング/地域貢献/産業界等との連携)

アクティブ・ラーニングへの転換の一施策として、1年次の必修科目において1週間～1ヶ月間学外で活動する「(長期/短期) フィールド・スタディーズ・プログラム」を実施。  
受入先である地方自治体・企業・他大学等と連携し、学外学修プログラムの質的向上、連携の強化を図っている。着手以降、受入先との継続的な関係性を構築。結果、長期プログラム数は32、短期(1週間)では25プログラム(10月時点)を運営し、北海道から鹿児島県、および海外で学外学修を展開。

### ③ グローバル化の進展

2024年の創立100周年に向け「武蔵野大学国際化ビジョン100」を掲げ、大学全体のグローバル化を推進。  
◇教育内容の国際化 ◇学生の海外体験を支援 ◇外国人留学生比率15%などを重点施策とし、海外大学との協定や、前述②の学外学修プログラム等を通じ、学生の海外経験を促進。2017年12月時点で75大学との海外協定校との締結。外国人留学生受入数は530名超見込み。(2017年12月時点)

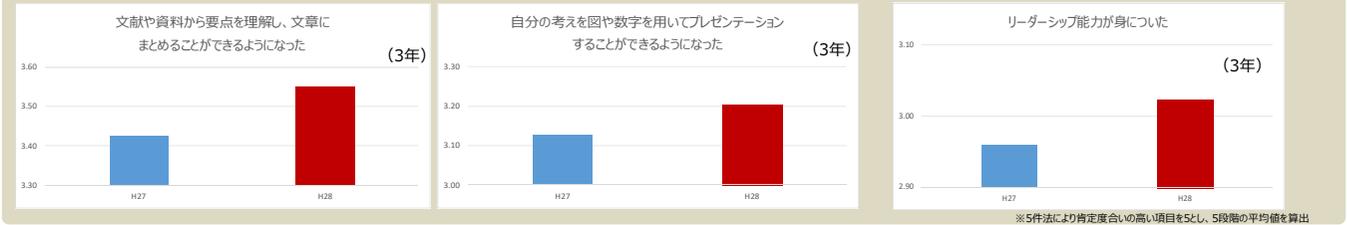
### ①4学期制移行&教育の質的転換 【学修機会・スタイルの過年度比較】(1年)



平成27年度からの4学期制一部導入、大学教育再生加速プログラム (AP) 採択を受け、授業運営、学修スタイルが変化

### 【学生の成長実感】(3年) 過年度比較

学生生活実態調査【2015&16】より



平成27年度より全学アンケートを開始し、29年度で3年目。本学が着手してきた様々な改革の成果を分析し、各種取組の改善に繋げるためのデータベースを整備中。本学独自の尺度に則った成果の評価、結果を踏まえた改善・進化という一連の改革サイクルが機能する教学マネジメントの確立を目指している。

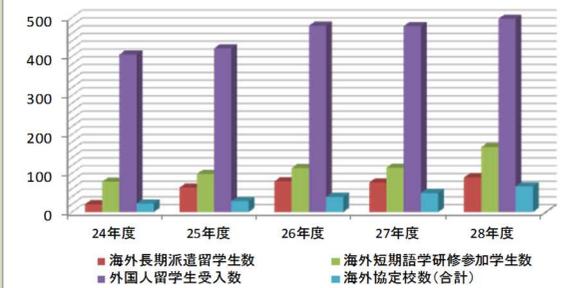
### ②全学的な学外学修の実践

学外学修プログラムの安定化 (運用:3年目)  
学外学修の概念整理  
【学外学修のサイクル】



カテゴリー	プログラム内容(抜粋)
長期プログラム	東京都八丈島 離島の保育園 インターンシップ
	福岡県大川市 TERRAZZA イベント企画立案PJ
	鹿児島県徳之島町 ふたり農園 インターンシップ
	長野県信濃町 都市部と地方が繋がる関係構築PJ
	新潟県十日町 インターンシップ
	北海道東川町 地方行政フィールドワーク
	徳島県阿南市 加茂谷地区 農業体験実習
短期プログラム	USA Los Angeles グローバルビジネス研修
	Taipei ホスピタリティ・ビジネス
	中国FSプログラム(連携大学滞在)
学科フィールドスタディーズ	東京YWCBプログラム(社会問題解決)
	保育・教育海外研修 (カナダ協定校保育教育視察)
	地域資源開発 (長野県天龍村限界集落の地域支援)
	USA ロサンゼルス イマージョンスクールアシスタント

### ③ グローバル化の進展



#### 【海外長期派遣留学生などの参加者数推移】

項目	24年度	28年度	5カ年伸び
1. 海外長期派遣留学生数	20	89	69
2. 海外短期語学研修参加学生数	78	167	89
うち第2学期留学プログラム	-	34	
3. 外国人留学生受入数(正科+別科)5/1時点	405	497	92
うち協定生 5/1時点	37	40	3
4. 海外協定校数(新規締結)	2	※ 17	15
海外協定校数(合計)	22	※ 66	44